



ラリー・ウィリアムズのパートナー **なりた・ひろゆき**

米アノマリーの第一人者、エール・ハーシュのあとを継いだ **ジェフリー・A・ハーシュ**による
主要市場を分析した最新相場予測レポート！

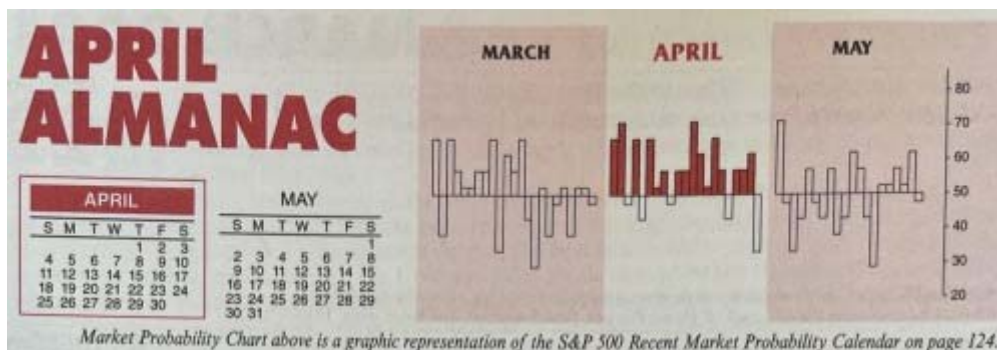
▼▼▼ご購入の詳細はこちら▼▼▼

<http://trs.jp/p/5962/2011411200000>

2021年3月23日

April Almanac: Top DJIA Month – Up 15 in a Row

4月のカレンダー：ダウは15回連続で上昇



4月はダウとS&P500の「ベスト6ヶ月間」が終わる月。シズナルMACDの売りシグナルの対象期間は4月1日からオープンになる。2020年11月5日のシズナルMACD買いシグナルは昨日の引け時点までの間で、ダウは+16.3%、S&P500は+13.2%上昇した。平均以上の上昇は励みになり、昨年のCovid-19で脱線したシズナルパターンが再び軌道に乗ったことを示唆している。

1999年4月は、初めてダウが1000ポイントを獲得した月だった。しかし、2000年から2005年まで、納税期日の4月は打撃を受け、6年のうち4年間で下落していた。2006年以降、4月は15年連続で上昇し、平均上昇率は+2.9%となり、1950年以降で最も優れたダウの月間ランキングの地位を取り戻している。S&Pでは2位、ナスダックでは4位といずれも良い月になっている(1971年以降)。

かつては4月前半が後半を上回っていた。しかし、1994年以降はそうではなくなっている。4月15日の納税期日(2021年は5月17日に延長)の影響は薄れているようで、納税期日の左右に強気の日が多数存在している。トレーダーと投資家は、4月中に第1四半期の収益と今後の先行きに注目していることは明らかだ。

今年は、経済が再開されつつある中で、経済の見通しが最大の焦点となりそうである。トレーダーや投資家は、「在宅ワーク」関連銘柄が引き続き成長できる兆しや、レジャー、ホスピタリティ、旅行が回復する兆しを探るだろう。

1953年以降、米大統領選挙後の典型的な憂鬱な気分によって4月のパフォーマンスを低下させることはほとんどない。選挙翌年の4月は、ダウにとって2番目に良い月で、平均して+1.9%の上昇となっている。S&P 500とナスダックでは4番目に良い月だが、選挙後の2005年、ダウは4月に-3%下落したこともある。

Post-Election Year April since 1950				
	Rank	Avg %	Up	Down
DJIA	2	1.9	11	6
S&P 500	4	1.5	11	6
NASDAQ*	4	2.4	10	2
Russell 1K**	4	2.4	6	4
Russell 2K**	5	2.1	6	4

* Since 1971, ** Since 1979

© StockTradersAlmanac.com. All rights reserved.

1950 年以降の大統領選挙の翌年の 4 月

Rank: ランキング; Avg%: 平均上昇率; Up: 上昇回数; Down: 下落回数

DJIA: ダウ

NASDAQ: ナスダック(1971 年以降)

Russell 1K: ラッセル 1000(1979 年以降)

Russell 2K: ラッセル 2000(1979 年以降)